

今、何の病気が流行しているか！

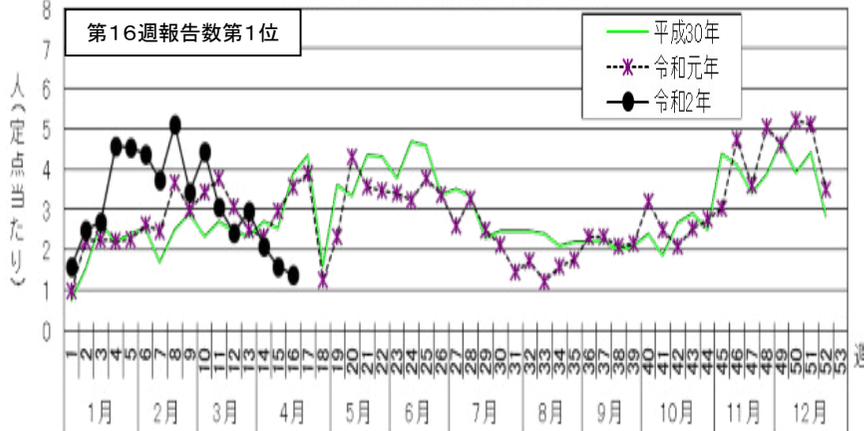
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年4月13日（月）～令和2年4月19日（日）〔令和2年第16週〕の感染症発生状況

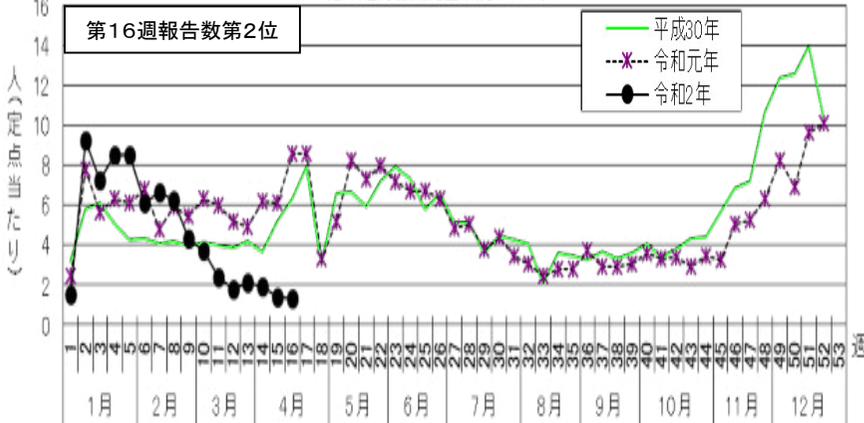
第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.38人と前週（1.59人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.30人と前週（1.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.30人と前週（0.38人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)

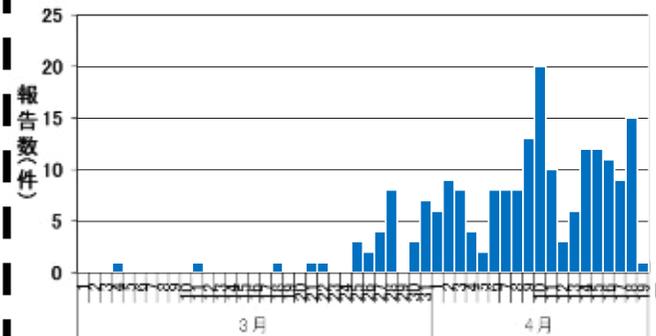


川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況

川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況は、令和2年第10週（3月2日～3月8日）に初めて市内医療機関から報告があり、その後令和2年第16週（4月13日～4月19日）までに計197件の患者が報告されています。年齢階級別では20歳代～50歳代が全体の78.7%と多く、60歳以上は18.8%、20歳未満はわずか2.5%で、性別では男性が全体の66.5%を占めました。感染経路は、女性は家庭内感染が多く、男性は勤務先や会食の場での曝露が原因と考えられる感染が多くみられました。

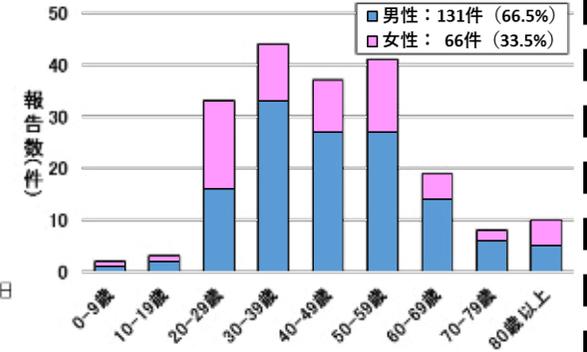
外出先から帰宅した際は十分に手を洗い、感染予防に努めましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断日別発生状況－令和2年－



※クルーズ船関連及び疑似症患者を除く。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の性別・年齢階級別発生状況－令和2年－



※クルーズ船関連及び疑似症患者を除く。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
 (問い合わせ先) 044-276-8250

令和2年4月21日作成